

ウクライナ難民あふれる隣国

ポーランド 78万都市に12万人



駅構内でボランティアと話すウクライナ難民の親子=21日、ポーランド南部のクラクフ中央駅、遠藤啓生撮影

化する人たちへの対応も課題になっている。

クラクフがある県のウカ

シユ・クミタ知事による施設を避難所として活用する準備を進めている。

人「約78万人のクラクフに推計12万人の難民が暮らし、4分の3は一般家庭が受け入れている」とみられる。「難民を泊める家庭に1泊40ズロチ（約1150円）を政府が補助しているが、受け入れ家庭から『この状態がいつまで続くのか』との問い合わせもきている」と危機感を露わにする。

3面に続く

ウクライナ国境から西へ約250キロ。25日、ポーランドの古都クラクフ中心部の避難施設では、ポーランド風ギョーザのピエロギの香りが広がっていた。

元病院だった施設を今月上旬、地元自治体などがウクライナ難民の避難所として開設した。収容規模は約200人。すでに満員だ。

ガリーナさん(70)は10日、ウクライナ北東部ハリコフの自宅から1キロ先が爆されたため、避難を決意した。頼れる身寄りもなぐ、タクシーで最寄り駅に行き、電車に乗った。西部リビウを経由し、2日がかりでクラクフにたどり着いた。「ポーランドの人々はとても感謝しています」

ロシアが2月24日に侵攻を始めてから今月26日までに、約382万人が周辺国に逃れ、ポーランドは最多の220万人以上を受け入れた。そこからドイツなど、別の国に行く人も多く、別に国に行く人も多い。それでも戦闘の長期化で難民の流入はやまない。

援をする語学学校講師のグレゴリ・ボワスカさん(27)は「避難先を紹介するのが以前より難しくなり、受け入れに手を挙げる一般家庭も減ってきた」と話す。ピーク時は同駅に1日5万人の難民がたどり着いた。一時に比べれば落ち

県はクラクフ市内の公共施設を避難所として活用する準備を進めている。

ウカシユ・クミタ氏が最も心配するのは戦線の拡大だ。ウクライナ西部への攻撃がさらに広がれば、西部にとどまっている国内避難民がポーランドに数十万人単位で流れこむ可能性もある。「その時は、本当に私たちの収容限度を超えることになる」(クラクフ=遠藤雄司、遠藤啓生)

ポーランド語勉強始めた

ウクライナ国外避難長期化

一面から続く

かの1ヶ月が過ぎ、近隣国に逃れた難民の避難生活も長期化している。子どもたちの教育や定住先の支援など、課題は山積みだ。

「50クロシュが四つ乗まるとどうやらですか」。先生が問い合わせると、児童が「2ズロチ（約57円）」と答えた。24日、ポーランド南東部ジエシュフの第21小学校であった、通貨を使つた1年生の算数の授業だ。

「一番後の席にいたアンナ・ミウジ・トルクさん（7）はウクライナ西部リビウから避難してきたアンナさん（7）=24日、ポーランド南東部ジエシュフ第21小学校、遠藤啓生撮影

ウカの母、祖母、姉のアリナさん（13）と2月来に避難してきた。当時は人と目を合わさない時代に逃げて、今は休み時間になれば

ウクライナと国境を接するハンガリー北東部の人口

約4千人の町ザーゲボニの駅所（UNHCR）による

シアの侵攻後、国外に逃れたり、人口約4100万のウクライナで、2月24日の口

月で「これは」大勢の人が難

避難に力を入れている。「この子たちは、人生が終わるまでトラウマを抱えるようになるかもしない。楽しい思い出が残るように全力で支援したい」

ミクロシュ・レショク副市长によると、施設の収容能力などの問題から、滞在

できるのは1日だけ。多くの人は、親類らを頼って国内に出て行く。それで30人以上の子どもが地元の小学校に通っている。NGO「ハンガリー改革ホニに住む」とを決め、すでに30人以上の子どもが地

元の支援団体が政府と協力して、言葉や生活習慣、労働環境などを学んでもらうプロジェクトを設けてくる。

カルシャさんは「多くの人は故郷に戻りたいのが本音だとと思うが、定住を選んだのであれば、できる限り助けたい」と話した。

（ジエシュフ（ポーランド南東部）＝遠藤謙司、ザーゲボニ（ハンガリー北東部）＝野崎達也）

難民382万人 人口の1割弱

民となるのは第二次世界大戦以降で初めてとなり。シアとの戦いに備えるため18～60歳の男性は原則、国内に残ることが求められており、難民の多くを女性や子どもが占める。

国連兌換基金（ユニセフ）によると、ウクライナの子ども人口の半分に当たる約430万人が避難を強いられ、うち推定180万人以上が近隣諸国に渡った。ユニセフは「子どもの人身売買の危険性が高まっている」と警告する。人身売買業者は大規模移動での混乱を悪用するためだ。

大人の女性も、連れ去られる恐れがある。グテーレス国連事務総長は「人身売買業者にとってウクライナの戦争は悲劇ではない。好機だ。女性や子どもたちが狙いなのだ」とツイッタに投稿し、保護を訴えた。

算数の授業を受ける、ウクライナ西部リビウから避難してきたアンナさん（7）=24日、ポーランド南東部ジエシュフ第21小学校、遠藤啓生撮影

ウクライナからの難民の数
3月26日時点



国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）によるデータから。ルーマニア・モルドバ国境を越える難民も含まれるために、各國の合計と総数は一致しない

友達の肩を組んで遊ぶ。アリナさんも「先生も友達もみんな優しくて、わくわくする」。友達とともに上手に話せるようになると、ポーランド語の勉強を始めた。

ドロズドフスカ・レナタ校長によると、24時点で、ジエシュフ市内の学校に通うウクライナ児童は623人。キリル文字を使ってきたウクライナ人の子供達は難しい。学校では学

校長によると、24時点で、ジエシュフ市内の学校に通うウクライナ児童は623人。キリル文字を使つてきたウクライナ人の子供達は難しい。学校では学

校長によると、24時点で、ジエシュフ市内の学校に通うウクライナ児童は623人。キリル文字を使つてきたウクライナ人の子供達は難しい。学校では学